

# 滋賀県衛生科学センターの役割



## 健康・医療・福祉の一体的データ解析と活用を通じ健康寿命の延伸を支える

日本の高齢化は進展の速度を速めており、2035年には3人に1人が高齢者になると予測されています。そのため、平均寿命を延ばすだけでなく、健康で元気に生活できる期間を示す健康寿命の延伸が欠かせません。

滋賀県の現状を見ると、県民の<sup>\*</sup>平均寿命は、男性が81・78年で全国1位（前回2位）、女性は87・57年で全国4位（前回12位）、<sup>\*</sup>健康寿命は、男性が73・0年で全国1位、女性が77・5年で全国1位と全国トップクラスの長寿県であることを示しています。一方、社会環境や生活環境の変化、急速な人口の高齢化とともに、疾病全体に占める悪性新生物、脳卒中および糖尿病などの生活習慣病の割合が増え、要介護者の増加が社会問題にもなっています。それらのリスク要因を特定できれば、さらなる健康寿命の延伸に向けた施策や取り組みが可能になると考

えられます。

滋賀県では、市町や県における予防的な健康づくりの取り組み推進をはかるために、2017年度より『健康寿命延伸のためのデータ活用事業』を開始。健康や医療、介護等に関する各種データの一体的な解析を担っているのが滋賀県衛生科学センターです。また、同センターでは、そうしたデータの活用および解析等の支援を行うことを目的とする『健康医療福祉疫学統計コンシェルジュ事業』を展開しています。所長の辻浩司さんと参事の鷺田淳さん、そして健康科学情報系の井上英耶さん（獣医学博士）にお話を伺い、それらの取り組みについて4回にわたって特集していきます。

<sup>\*</sup>平均寿命「平成27年都道府県別生命表（厚生労働省）」

<sup>\*</sup>健康寿命「日本の都道府県別の疾病負荷研究（1990～2015年東京大学）」



辻浩司所長



鷺田淳参事



井上英耶さん（獣医学博士）

## 滋賀県衛生

### 科学センターとは？

滋賀県衛生科学センターは、地域保健対策を効果的に推進し、公衆衛生の向上および増進をはかるため、滋賀県における科学的かつ技術的の中核として設置された「地方衛生研究所」です。健康科学情報係、微生物係、理化学係の3つの係に分かれ、試験検査や調査研究、研修指導、公衆衛生情報の収集・解析・提供を通じて県民の健康と安全・安心な暮らしを守っています。

1

#### 健康科学情報係

健康に関する統計調査やデータ分析、感染症の発生や動向調査、健康危機に関する公衆衛生情報を提供しています。

#### ●人口動態・その他の衛生統計

統計法に基づき調査を行い、国の公表結果を基に集計作業をして、保健所等へのデータ提供、健康福祉統計年報の作成等を実施。

#### ●公衆衛生情報解析

県および市町の疾病動向を解析し、死因統計解析報告書を作成、また、健康づくり支援資料集を作成。

#### ●健康寿命延伸のためのデータ活用

県民の健康寿命延伸のため、健康や医療、介護等に関する各種データを一体的に分析、評価し、施策構築への活用をはかる。

#### ●感染症の発生や動向に関する情報の収集・解析・提供

感染症予防のために情報を収集・解析し、週報や月報として保健所、医師会等に提供。

#### ●健康危機管理情報センター

国内外の健康危機管理情報を、関係機関に情報提供するとともに、保健所等が行う感染症や食中毒等の調査、疫学解析を支援し、研修会を開催。

2

#### 微生物係

感染症に係る発生動向調査や食品等

の計画的な微生物学的検査に加えて、食中毒や感染症に関する緊急検査を行っています。

#### ●健康危機管理の対応

新型インフルエンザ、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、テング熱、ジカ熱、炭疽等を検査。

早期の終息が望まれる新型コロナウイルス感染症についてもPCR検査を行っています。

#### ●感染症の検査

麻疹、風疹、手足口病、無菌性髄膜炎、インフルエンザなどの病気を起こすウイルスの調査およびコレラ菌、赤痢菌、チフス菌、腸管出血性大腸菌O157などの病原細菌を調査。結核の感染を喀痰（塗抹・培養検査）と血液（QFT検査）で調査。

#### ●食中毒、食品等の検査

ノロウイルス、サルモネラ、黄色ブドウ球菌、カンピロバクター、クドアなど食中毒の原因微生物検査および安心、安全のために、県内の流通食品や水道水などの細菌や真菌を検査。

#### ●遺伝子の検査・解析

ウイルス、細菌などの遺伝子を解析して、原因食品など感染源、感染経路を調査。

3

#### 理化学係

私たちが口にする食品や水の安全性をはじめ、放射能についても調べています。

#### ●食品

滋賀県食品衛生監視指導計画に基づき、流通する食品の成分規格、食品添加物、残留農薬、放射性物質、畜産物の動物用医薬品、アレルギーや遺伝子組換え食品などを調査。

#### ●水道水

滋賀県水道水質管理計画に基づき、県内主要水源の水質監視、また県内の水道水質検査事業者の検査精度の向上に向けた精度管理事業を実施。

#### ●放射能

滋賀県内9か所に測定装置を設置し、24時間、大気中の放射線量を監視。雨などの降下物、大気粉じん、水道水、土壌、精米、大根などについて、放射性物質の含有量を測定。

滋賀県地域防災計画に基づき、平常時におけるモニタリングとして、環境中および農産物中の放射性物質を測定。核実験等が行われた場合、緊急の放射性物質の調査を実施。

#### ●その他調査

インターネットサイト等から買い上げた危険ドラッグを調査しています。

保健所などからの依頼により、食品摂取による健康被害の原因物質調査を実施しています。（自然毒、食品の変質、化学物質の混入、アレルゲン等）

## 【データ活用プロジェクト】

### 健康寿命延伸のためのデータ活用事業

県民の平均寿命・健康寿命、受診率や要介護認定率など健康や医療、介護等に関する各種データを一体的に分析・活用することにより、市町や県における予防的な取り組みの推進をはかり、県民の健康寿命延伸および市町間の健康格差を縮小するための事業として平成29年度（2017年）に同センターで発足しました。

この事業には、大きく分けて3つの柱があります。

● **健康・医療・介護の分析、評価事業**  
 県民の健康・医療・介護に関するデータの集約分析を行い、県や市町の健康課題を明確化。

● **データ活用事業**

### プロジェクト会議の設置

同センターを事務局として、健康課題、優先順位の明確化（見える化）、事業内容の提案、課題整理を行うとともに事業の評価を一貫して行うチームを設置。



学識経験者、県内市町、保健所長、各県内保健所健康づくり担当、県関係課、衛生科学センター健康科学情報係で構成されています。

### ● 大学へ研究委託

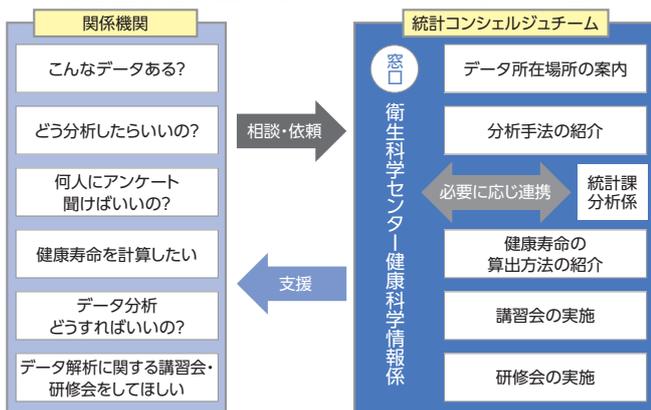
県の保有する健康・医療・介護に関するデータおよび大学の保有する社会環境因子などのデータを分析して、本県の健康寿命延伸につながる阻害因子や促進因子を明確化するために、国立大学法人滋賀大学データサイエンス学部にて研究委託を2017、2018年度に行っています。

### 健康医療福祉疫学統計コンシェルジュ事業

健康・医療・福祉関連のエビデンスに基づいた政策立案の推進に貢献するため、県関係機関や県内市町のデータ活用支援等を行っています。現在まで、医療法に基づく「保健医療計画」、健康増進法に基づく「健康いきいき21」、その計画の根拠となる「健康づくり支援資料集」の作成など、健康関係施策の計画策定時には基本的なデータを解析し、資料などの提供を行ってきました。また、県の健康医療福祉部内や健康づくり関連の市町等の関係機関からの相談や要望に対応し、健康づくり分野での科学的根拠に基づいた政策立案の支援を行っています。

こうしたデータの利活用に対する支援の需要は今後一層高まると考えられます。しかし、相談支援機能についての関係機関の認知度が低いところから、命名されたのが「健康医療福祉疫学統計コンシェルジュ事業」です。名称の周知を通じ、健康・医療・福祉に関する施策のEBPM (Evidence-based Policy Making、エビデンスに基づく政策立案) の推進に貢献していくことが目的です。

### 健康医療福祉疫学統計コンシェルジュ事業の概要



このように、同センターでは「B（微生物）、C（化学物質）、E（疫学情報）、N（放射性物質）への的確な検査、分析、情報提供を通じて、健康寿命の延伸、健康被害の防止、健康危機管理を支援する。」を基本方針として多くの仕事や課題に取り組んでいます。次回は、「健康寿命延伸のためのデータ活用プロジェクト」の1年目の取り組みである「健康寿命の要因分析について」をお届けします。